

ペアレンツキャンプ 諸先生方

梅雨明けの待たれどこの頃ですが、今日この瞬間も先生方は全国の子供達の為走り回っていらっしゃるのでしょうか。支援を卒業した今も心から先生方への感謝の気持ちで一杯です。約三年その長い間 お世話になりましたがこの三年間は、私の人生の中で最も衝撃的で 上げさでなく三年前と今の自分は違う人格といってもいい位 それくらい色々な事を教えて頂いた三年でした（それまで何も考えないで日々を過ごしてしまっていたから…）

三年前 支援をお願いする前まで 私は子供を育てるという事において 決定的な勘違いをしてきていました。

子供の為に 行く道の先々にある障害物を取り除き穴をふさいでやり楽に楽に進める様にしている。それが親の出来る事 役割の一つと無意識にそれを行っていました。でもそれは本人の為というよりむしろ自分の安心の為であったと思います。

更に自分の安心を得る為 次男の生活をあらゆる面から干渉し 口出ししていました。

そんな風に育つられ彼は、深く傷ついていたであろうと思います。そんなに自分の事を信頼できないのか。と。どんどん次男は おかしくなっていました。

いもになつて月に1度くらいのペースで休み様になり
クラスでは、どんどんと友達から浮いていきました。
その理由は「ちよつとした事ですぐにくれる」からだったようです。
年相応の我慢力 ストレス耐性が育っていなかったのだよね。
塾でも、たびたびキレて大暴れするようになり、6年生の
秋ごろには辞めとくれと先生に言われ、やめました。

その夏は私の実父が病いを悪い入院を余儀なくされ
次男の事に危機感を感じながらも、しっかり子供を見と
いかなかった様に思う。

冬になり次男がクリスマスプレゼント(お金)が欲しいが
為 父の病院に一緒に来たはよいものの、もらえなかった
と、怒り一人で帰ってしまった時は、何故こんな風に
育ってしまったのかと悲しい気持ちになりましたが、まだ、
私は何もわかっていませんでした。

年が明け、ますます行き渡り様になりました。大震災の
後、余震が怖いから行かない等と、いつか休み、卒業
式は出るというながら、学校なんて意味がないとうつろな
目つぶがゆき。式の当日は無理やりスーツを着せ担任
の先生にも迎えに来ていただき、なんとか参加したという
状態でした。春休みになると、家から一歩も出ず、昼夜
逆転し、寝るようにと促すと「そんな事言われるぢないは
はい、子供にも親を選ぶ権利はある」と言われました。②

中学校の入学式には何とか出たものの、その後は毎朝のようにパニックを起こし、タクシーで学校まで送った事も1度2度ではありませんでした。

この頃は、きっとこの子は病気のなだと思いつき、心療内科へ連れていったりしました。でも次男は「何でこんな所連れて来た!」と口を捨てる様に言いました。俺は病気がない! そう言いたかったのだと思いきや、でも男の子はまだまだその心の叫びを理解する事が出来ず、この頃の対応は最悪でした。子の機嫌をとり何でも言う事を聞き... それにつれて幼稚な退行が顕著になり、折り紙や新聞紙の剣道の戦いごっこ、トランプを朝まで付き合わされたりしてました。

そんな頃 ネットで「復学支援」というものの存在を知りました。不登校には3つのきっかけと原因の違い、親が変わる事で子供が変わる... これだと思いました。

その時はまだ五月半でも登校していたので、自分なりに対応を変えてみる事にしました。

それでもそんな付け焼き刃が効く程簡単はそのではありませんでした。あつとした事が気に食わないと怒り狂ってリビング中を荒したり、物を投げたり破壊したり... としてついに7月からは全く学校に行かなくなりました。最初の電話カウンセリングで佐藤先生とお話しさせていただいた日が、1度約3ヶ月半の不登校の始まりの日でした。③

その日から 本当に「くごん」の事を教えて頂きました。
我が家の問題点、一つ一つ指摘して頂きました。親の立場
が低く子上位、一貫性のない子育て、夫婦の意志疎通
が出来ていない、過保護、過干渉、今まで当たり前
にしてきた事を、全て変えていかねければなりませんでした。
そしてその度々 反発、裏波がおし寄せてきました。

極めつけは洗面所籠城事件でした。物欲の鬼と化して
いた次男が 私が買い物から帰ると 牛乳をテーブルや床に
ぶちまけ、醤油で廊下に「パソコンかえ」と書きました。
怒めると、何やら色々な物を持ち込んで（布団や扇風機、
水や食料など）つかい棒をして洗面所に籠りはじめました。
パソコンを買ってくれるまでここに暮らす、と言い、メールで「今から
冷蔵庫のブレーカーを落とす」「次は、エアコンをきる」等と
送りつけ、真夏にエアコンや冷蔵庫が使えなくなりました...
その間、当時 家庭教育支援コースごあったにも関わらず先生
は夜中までメールやお電話で本当に誠心誠意の対応を
して下さいました。今思い出しても涙が出ます。本当に
心強かったです。アドバイスに従っている日目の夜に何とか
次男の条件をのびとなく 主人と取組む合意にたどりながら
もそこから出る事が出来ました。その後色々事件が
起こりましたが その都度 先生のご指導により乗りこえら
れました。家庭教育コースから、問題解決コースへと

移行出来事となり、引き続き佐藤先生に顧問をして頂き、正式に週3回のお電話でのカウンセリングが始まりました。時に弱音を吐いたりしたりする事もありましたが先生はしっかりと受け止めて下さり、又間違えた事にはどう違おうのかを的確にご指摘下さいました。

そして迎えたダイレクトアプローチの日、とにかく不仲組を前日同様「女優」にやらなければと気が張っていましたが先生方の体当たりでの真剣勝負、心からの言葉ひとつひとつにいつしか涙していました。失敗の許されない状況で本当に極限の精神力で臨まれていたのだと、改めて感じ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

その日の次男の顔は前日までのそれとは全然違っていました。

水野先生の「学校に行けなくなった、そして色々悪い事をしてきた、それが止められなくて、今のお前はいけない、だからもう止めろ!!」との言葉に泣きながら「ごめんない...」と謝った次男。本当に謝らなければならぬのは父親の方なのに、もうこんな思いは二度とさせてはいけない、強く心に思いました。ダイレクト後先生に、「お前がいけない、は本人否定、〇〇はお前はいけない、は行動否定、その違いは大きいです」と教えて頂きました。ずっと忘れず心に留めておかねば、と思いました。

そして10月18日、再登校の日を迎えました。訪問の中野先生と学生の辻さん（現在は先生ですが）に見送られ校門をくぐると聞きまた涙が。（何回泣くのでしょう...）

その後の登校は先生方に「奇跡の男」と呼ばれる程、順調でした。その頃の私はその順調が次男の頑張りでありにも関わらず、もう大丈夫と家庭教育を理解した気持ちでおりました。正確には、頭で理解しているにすぎず実践力はほぼ無い状態でした。

なので一年程して又波がやってきた時にはオロオロしっぱなしでした。

再び五月雨でゆく次男...

私は先生を頼りすぎていました。先生が何とかしてくれる。Tさんが来てくだされば何とか...

そんな私を気持ちを見透かすかの様に先生はおっしゃいました。「我々はいずれ去っていく。〇〇の親は、あなたしかいない。あなたが今本気で向きあわないと、彼はずっとこのままだろう」と。

その言葉でハッと我に返る事が出来ました。それから本意の意味での「我が家の対応」というものをひとつひとつ、失敗しながら、先生にご相談しながら、作っていきまいた。親が子供を信じる、その強い気持ちさえあれば乗り越えられないものはないと信じて。

そうしている間に 彼も受験生となり、どうなる事かと心配する親を尻目に自分で塾を決め、希望校をも自分で選び、そして見事「合格」の2文字を勝ち取る事が出来ました。

今年4月から晴れて高校生となり 2ヶ月たちましたが一度も休む事なく 一時間の道のりを元気に通っています。中間テストの前には毎朝早く起きて勉強をし(!)、大好きな過先生に 中学時代見た事のないような点数をLINEで報告してきたと聞き 本当に嬉しく、あの辛かった時にペパレンツキャンプに辿り着く事が出来た事に改めて感謝しております。 本当にありがとうございました。

最後に、少しでも多く 今辛い思いをしている家族が 救われる事を願ってやみません。その為にわすかながらも出来る事があれば、お世話になった先生方の為 ご恩返しが出来たら幸いです。

2014. 6. 13